

九重山の火山活動解説資料（平成 27 年 7 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められませんが、GNSS¹⁾連続観測によると、わずかに伸びの傾向が認められますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

九重山は活火山であることに留意してください。

噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 7 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 3-①③）

硫黄山付近の噴煙は白色で、高さは噴気孔上 200m 以下で経過しました。

・地震や微動の発生状況（図 3-②④）

火山性地震の月回数は 7 回（6 月：4 回）と少ない状態で経過しました。

火山性微動は 2006 年 10 月以降、観測されていません。



図 1 九重山 噴煙の状況（7 月 9 日、上野遠望カメラによる）

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 27 年 8 月分）は平成 27 年 9 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び大分県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

・地殻変動の状況（図 4、図 5）

GNSS 連続観測では、上野ー坊ガツル、坊ガツルー牧ノ戸峠、星生山北山腹ー坊ガツル、星生山北山腹ー直入Aの基線で、2012 年頃からわずかに伸びの傾向が認められます。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

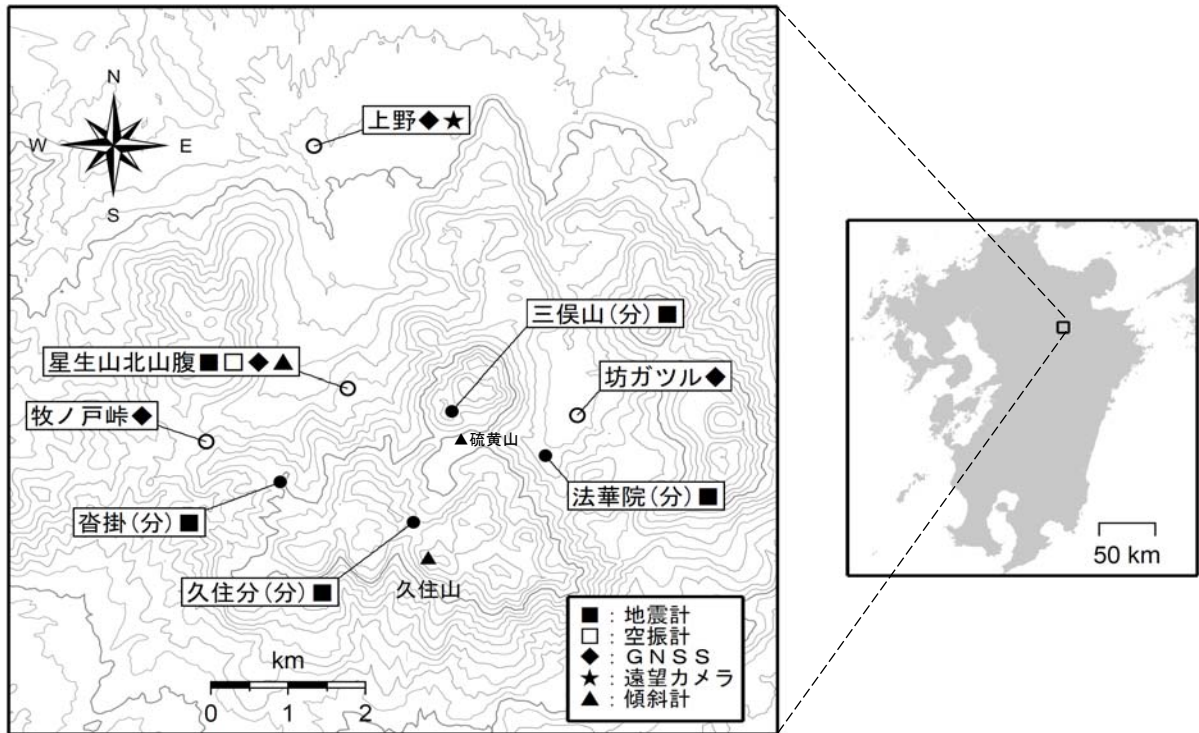


図 2 九重山 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(分) : 大分県

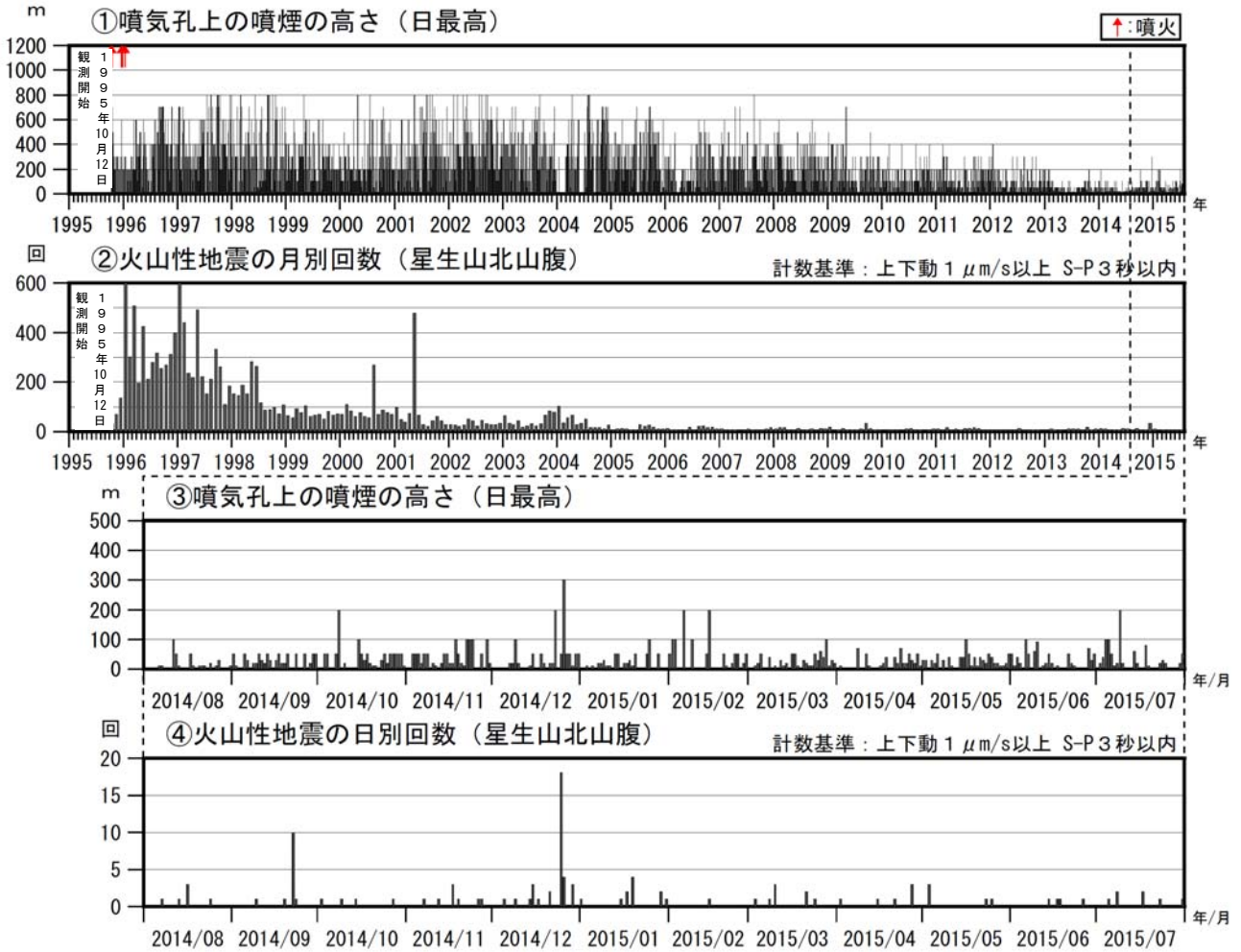


図3 九重山 火山活動経過図（1995年10月～2015年7月）

< 7月の状況 >

- ・硫黄山付近の噴煙は白色で、高さは噴気孔上 200m以下で経過しました。
- ・火山性地震の月回数は7回（6月：4回）と少ない状態で経過しました。

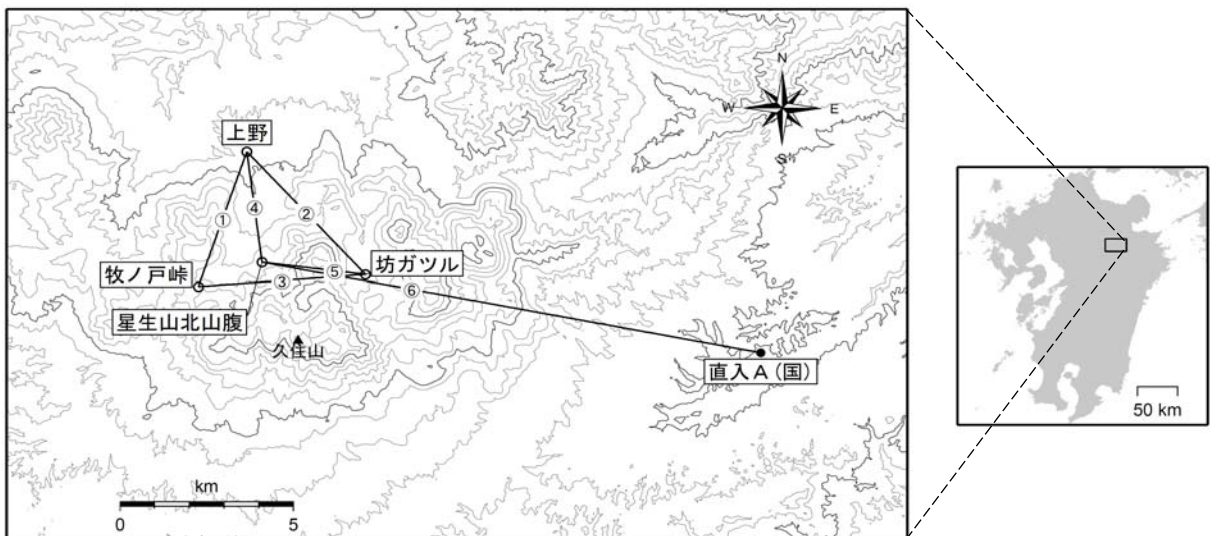


図4 九重山 GNSS 連続観測点と基線番号

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院

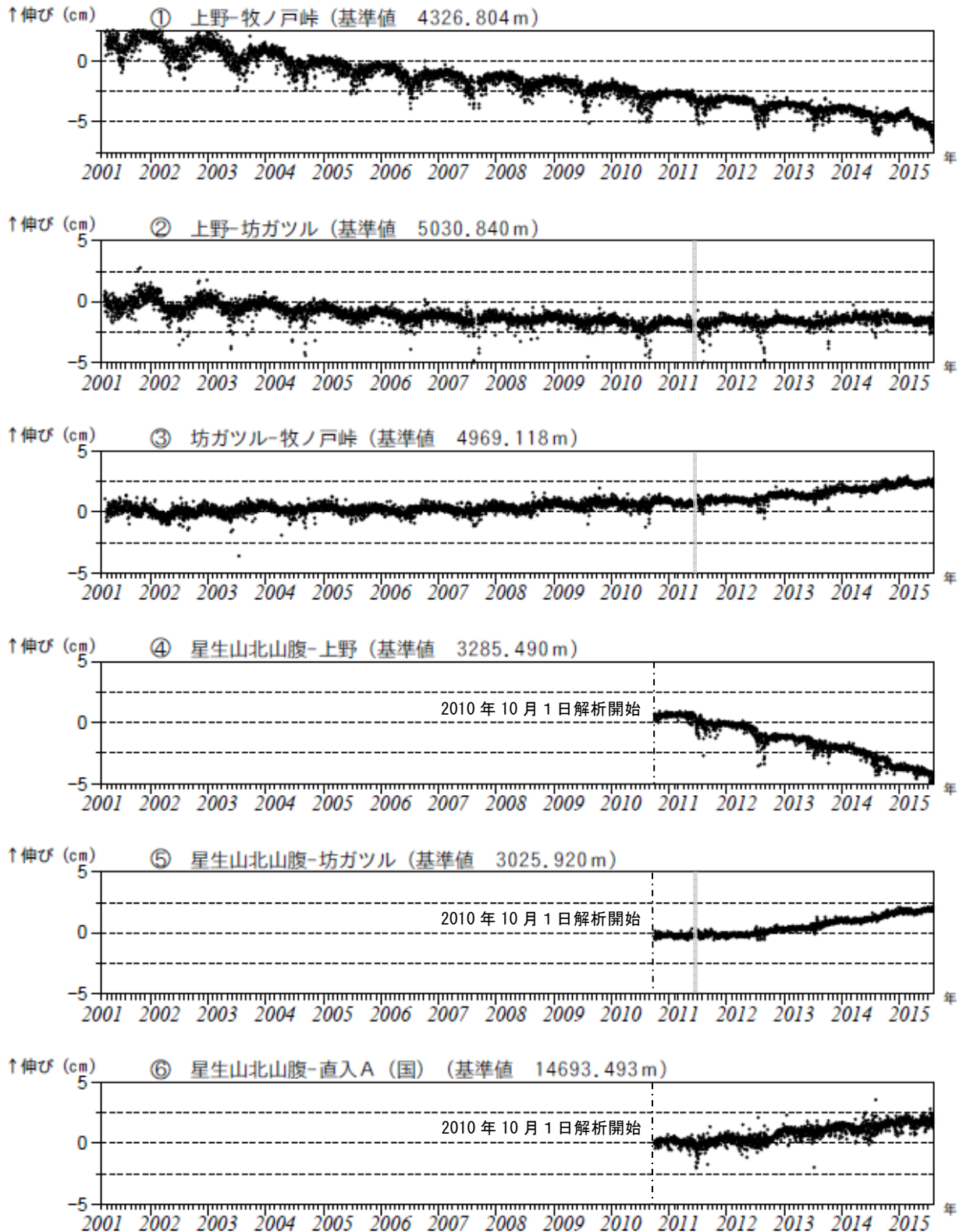


図5 九重山 GNSS 連続観測による基線長変化 (2001 年 3 月～2015 年 7 月)

GNSS連続観測では、②上野-坊ガツル、③坊ガツル-牧ノ戸峠、⑤星生山北山腹-坊ガツル、⑥星生山北山腹-直入Aの基線で、2012年頃からわずかに伸びの傾向が認められます。

これらの基線は図4の①～⑥に対応しています。

2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。灰色部分は機器障害のため欠測を示しています。

(国)：国土地理院